

2020 年度事業報告

私たち特定非営利活動法人所沢市学童クラブの会は、子どもたち一人ひとりに寄り添い、心の声を聴き、丁寧に働きかけること、そして子どもたちと一緒に生活をつくっていくことを大切に、また子どもを真ん中に保護者と協力し、学童保育を通して地域との結びつきを築き上げていくことを50年以上前から変わらず続けてきました。

安全、安心を土台として、子どもたちが自分らしく、充実した生活をおくることが学童保育であり、子どもを中心として、保護者だけでなく、地域や社会で子どもたちを見守っていこうとする姿勢を私たちは大切にしてきました。

注) 学童保育とは、制度や施設を含めた一般的な通称
法律上は、「放課後児童健全育成事業」
施設は、実施する自治体によって名称が違い、
所沢市では、「放課後児童クラブ」
認定資格制度により指導員は「放課後児童支援員」

学童保育は、2015年の国の放課後児童クラブ運営指針・基準の制定、職員の認定資格制度の創設を機に大きく前進しました。

所沢市では条例化により公的責任が大きく拡充され、保育料の統一、31カ所が所沢市立児童クラブとなりました。制度としての前進に伴い、保育を必要とする世帯の増大も相まって、絶対的な施設数の不足、クラブの大規模・過密化、入所制限による待機児童の増加などがここ数年の大きな課題となっています。

市内では7年間で民設民営児童クラブが10カ所新設され、定員のある生活クラブでの定員増を図るなど受入児童数の拡大、大規模過密化の解消に向けて改善が図られています。しかし、待機児童は減少せず、低学年でも児童クラブに入所できない小学校区があるというのが現状です。

当会が運営する18クラブでは所沢市との協議の上、最大限の児童の受け入れを行い、2020年4月の登録児童数は1067名となりました。入所保留児童は9クラブ118名、1クラブの在籍平均児童数は60名と定員を大幅に上回る児童数が在籍しています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止策による休校対応が続いている中でのスタートでした。所沢市の要請に応えすべてのクラブを朝から開設し、これまで通り保護者の就労を支えることができました。報道などもあり、学童保育が社会的に必要不可欠であることがこれまで以上に明白になりました。我々もあらためて誇りと責任を強く意識することになりました。

学校再開後も感染症対策に細心の注意をはらいながら、これまでの生活を見直し、コロナ禍での新たな生活を子どもたちといっしょに構築してきましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大は今後もまだ予断を許さない状況です。2021年度も引き続き感染対策の徹底を図りながら、これまで通り子どもたちとともに安心できる生活づくりを行っていきます。

2020年4月より開所した緑町三丁目学童保育所「よつばクラブ」は、当該地域での待機児童解消とともに地域とつながりながら子どもの育ちを豊かに育む学童保育所をめざして開設しました。

また、所沢市民設民営児童クラブに応募し、南小学校区で2021年4月に「ひだまりみなみ」を新規開設することが決まり、所沢市立児童クラブ指定管理者選定では、応募した8区分16クラブの指定管理者として選定されました。

1. 子どもたちに生き生きとした、 より豊かな放課後をめざします。

職員部会を中心に、各クラブで子どもたちとともに生活をつくり、その生活を通して、子どもたちが健やかに成長・発達していけるように支援を行ってきました。感染症対策のため、これまでの生活を子どもたちとともに見直すことになり、あらたなルールづくりやそれに伴う緊張感の中で子どもたちも支援員も試行錯誤の1年でした。

また、保護者会や行事がすべて中止となる中、各クラブでお迎え時やおたよりなどを通して日々の子どもの様子を保護者へ伝える努力を行ってきました。年度末のアンケートでは行事等の中止を残念に思う保護者の声も多く、このような状況の中で保護者同士のつながりをつくる機会を考えていく必要があります。

2. 大規模化や保留児解決に取り組みます。

2020年度も所沢市との協議の上、各クラブで最大限の児童の受け入れを行ってきました。保留児童は9クラブ118名。10クラブが入所率150%を超えており、200%越えも3クラブあります。

各クラブにおいては生活時間の見直しをはじめとした様々な工夫や努力を行っており、大規模・過密化を言い訳にしない、これまで続けてきた「子どもたちとともに生活をつくる」ことを変わらずに行ってきました。

また、青少年課の尽力により雨天時や長期休業日の学校施設借用に加えて、コロナ対策として小学校施設を多くのクラブでお借りすることができました。

新所沢地域での待機児童解消、そして会の理念を実現していくために緑町三丁目学童保育所「よつばクラブ」を独自施設として4月より開設しました。北小、清進小、上新井小の3校区9名の

児童が通っています。当会の独自施設として地域と連携した事業や取り組みを行う予定でしたが、感染症の拡大により2021年度以降に再度プロジェクトとして検討していきます。

また、待機児童が非常に多い所沢小、南小学区での児童クラブ開設を目指し、昨年度から準備を進めてきました。7月に南小隣接の物件を確保することができ、所沢市民設民営児童クラブに応募、10月には受託が決定し2021年4月に「ひだまりみなみ」として新規開設することが決まりました。広い敷地に平屋の一軒家を改装し、日当たりのよい「お家」のような施設となりました。ひだまりという名前のようなあたたかいクラブを目指します。

3. 学童保育に関わる様々な団体と 協力・連携していきます

埼玉県や埼玉県学童保育連絡協議会などが主催した研修会を通して講師や世話人、レポーターを派遣し、積極的に参加してきました。今年度はオンラインでの開催でしたが、職員も積極的に研修会に参加し、資質向上に努めてきました。

放課後児童支援員認定資格研修では、クラブの会の常勤職員全員が履修を終えており、あらたに非常勤職員8名が有資格者となっています。

埼玉県学童保育連絡協議会に役員(副会長)、運営委員を送り出してきました。

4. 財政の安定と組織基盤の充実をはかります。

前々回2014年の指定管理者選定は非公募で24クラブを受託しました。前回2017年の選定は公募で8区分16クラブの受託となり、経営として非常に厳しい局面となりました。2018年からの指定管理期間3年の中でどう取り組み、改善して

いくのか、大きな決断を迫られました。

2018年は運営クラブ数が減り減収の中でしたが「職員の雇用確保」を第一の優先事項とし、翌年2019年を「抜本的な収支構造の改善」として就業規則の見直し、給与表の改定を行うなど大きな変更を行いました。職員の雇用を損なうことなく、長く働ける労働環境を作り上げていくことと、財政の健全化という難題は、職員の協力なくして実現できませんでした。この年は単年度収支の黒字化を図ることができました。2020年は「安定的運営」の初年度と位置づけ、取り組んできました。単年度収支でも2年連続で黒字化を図ることができ、経営的にも今後道筋を付けられた年となりました。

10月に行われた指定管理者選定では、応募したすべての8区分16クラブを受託することができました。指定期間は5年となり、保育の継続性を大切してきた当会としても、2021年度からの5年間をこれまで以上に信頼される法人を目指していくこととなります。

また、今回の選定結果を分析し、今後のクラブの会の在り方をどうしていくかという、大きな視点での検討が必要です。これまでの歴史を振り返り、会の理念・目的をあらためて考え、確認していくこととなります。

また今年度は、コロナ対応助成金から職員へのコロナ特別手当支給を行い、感染症対策として各クラブでの感染防止費用が活用されました。

会としても臨時休業期間中のパート職員への休業補償、小学校等休業助成金申請を行うことができました。

組織を強化していくためには、職員体制の充実が欠かせません。しかし正規職員の有資格者採用に厳しい状況があり、今後の財政状況を見据えながら採用活動や広報活動にこれまで以上に力をいれていく必要があります。

5. 地域に貢献します。

50年以上に渡り、各クラブでバザーや子どもまつり、地域の行事や活動など様々な場面で参加・協力し、地域の一員としての関係を築く努力をしてきました。

しかし2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大のため、すべての行事を中止にせざるを得ませんでした。感染症の状況にもよりますが、今後も学童保育を通して、地域の方々と結びつき、行事や活動に協力し、地域の一員としての関係を築いていきます。

【2020年度 18クラブこの1年】

北秋津ゴロニャンクラブ

2020年度は新一年生9名を迎え児童数42名と職員体制常時3名で生活を送ってきました。

新型コロナウイルスの影響で見通しのつかない生活のまま新年度を迎え、手探りで感染対策をしてきました。子ども達にも普段以上の負担をかけることになり、あっという間の一年でした。

仲間と外で走りまわること、部屋で独創的な物づくりやボードゲーム、伝承遊びが大好きなゴロニャンクラブの子どもたち。特に今年は鬼滅の刃にどっぷりハマった一年でした。サンタさんからもらったマンガは今でも熱烈なりピートを生んでいます。

そして、学童の醍醐味である集団遊び。ルールのごとでぶつかり合いながらも、毎日のように弾けた笑顔が飛びかい、濃い仲間関係をつくってきました。遊びの中のトラブルはお互いを意識することにつながり、子ども同士にとって大切な時間でした。

また、子どもたちと話し合いをたくさん行った一年でもありました。困っていることを率直に伝えると、子どもたちも真剣な表情で聞き、発言も様々でした。自分の素直な気持ちを伝えて仲間の気持ちを理解することは時間のかかることでしたが、楽しいことだけではなく、たくさんの経験を積み重ねてきたことは次のステップへつながる出来事になりました。

安松えんぴつ児童クラブ

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学校休校時や分散登校時でも出席率が高く、様々な対策に追われた一年間でした。大きく変えたことは、消毒の徹底と手洗いうがいの回数を増やしたことでした。子どもたちもよく理解したうえでがんばっていたと思います。

今年度も毎週月曜日に『お話の時間』を設け、

支援員の話の聞いたり、子どもたちと話しあったりする場を作りました。日々の生活の中で、大人からの話で生活の流れを断つことが減り、子どもたちも支援員の話の聞く姿勢が見えるようになってきました。意見を言える場として生活に困っている事や「やりたい!」と思っている事を子どもたちから発信してくれる事も多く、可能な限り子どもたちの意思に沿えるようにしてきました。

遊びでは、自然に恵まれた環境の中でのびのびと遊べました。学童横のブランコをタイヤに変えると、さらに人気が出ました。ベイゴマ人気も続いており、学童内の大会をたくさんやりました。『一輪車チャレンジ』『ベーゴマ大会星取カップ』『ソーシャルディスタンスハロウィン』『豆まき〜鬼の逆襲〜』『マンカラ大会』等、新しい行事を取り入れて楽しみました。

支援員会では補助員も含めて話し合うことで、保育の課題や見通しを深めることができました。日々の打ち合わせで子どもの様子を共有し、帰ってくるその子をどう受け止めて、話を聴くのかを大切にしてきた一年でした。

牛沼ありんこ児童クラブ

4年生男子2名を筆頭に、1~4年生67名で、今年度も子どもたちを中心にしてクラブの生活をつくってきました。年度初めはコロナの影響で先が見通せず、子どもも大人も感染拡大の中、不安な日々を過ごしました。校庭のジャングルジムなどの数々の遊具が「使用禁止」とテープが貼られ、今までふつうに出来ていた遊びが出来ない状況でした。密を避けるため集団遊びが難しい状況で、活発だったのは1人でも出来る手芸や工作。布マスクやシュシュ、ビーズのプレスレット、紙の剣や鉄砲など、作った後も、大事に使ったり遊んだりする様子が多くみられました。

少しずつコロナ禍の生活にも慣れてきた冬休みの時期、上の学年から「やりたい」の声があり、恒例のクリスマス会を開催しました。夏休みさよ

ならパーティーも秋恒例のありんこまつりも無く、子ども主催のイベントはこれが今年度初めて。支援員も見守り手助けしながら開催出来ました。班対抗のゲームも行いました。これをきっかけに異学年間のつながりがようやく出来、年明けには次年度に向けた班替えについての話し合い、お楽しみ会につながりました。

松井まつぼっくり児童クラブ

2020年度は、新たに1年生20人、3年生2人を迎え児童数61人でスタートしました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な対応を取りながらも開所してきました。

手洗い・アルコール消毒の徹底・マスク着用の声かけや健康観察カードの提出、密にならないようにテーブルの増設・遮蔽シートの設置・消毒・換気などに心がけてきた一年になりました。

室内あそびでは、将棋が流行りだしたのを機に、焼きごてで文字を焼いて手作り駒を作製しました。カードゲーム「ウノの兄弟版DOSドス」・「トマトマト」やルービックキューブを購入し、仲間を誘って輪が広がりました。外遊びの充実では、新しく一輪車を15台購入し、併せて一輪車置き場も田村工務店で作製しました。毎日、一輪車を練習する男女の姿がみられ、大人の手も借りずに練習し、空中乗りができるまで成長していました。ドッチボールやドロケイなどの集団あそびも仲間を誘って遊んでいました。

3月の卒所式には、6年生3人が揃って参加し、卒所証書・認定証・記念品（ネーム入り杓文字）花束・みんなからのメッセージを贈りました。

和田たつのご児童クラブ

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月の緊急事態宣言後の約1カ月間小学校が臨時休業、放課後児童クラブも自粛要請となりました。5月下旬からは分散登校となり、よ

やく子どもたちと放課後の生活を送ることができました。

大きく変化した生活様式の中でも自主性・自発性・自立を合言葉に、子どもたちが生活や遊びを主体的に展開できるよう積み重ねてきました。

外遊びではこのような状況下でも校庭を使わせていただけたため、サッカー、野球、バドミントン、バスケットボール、ドッチボール、ケイドロ、鬼ごっこ、大なわ、タイヤじゃんけん、砂場遊び、一輪車、鉄棒、虫探しなど思い思いの遊びを展開できました。

室内遊びでは将棋や紙工作、ぬり絵やイラスト、すごろく、カードゲームなどが盛り上がりました。特に「鬼滅の刃」シリーズのぬり絵やイラストは大人気でした。

今後も引き続き仲間と協力し、目標を持って頑張るという経験の中で培われる力を学童の生活の中で育めるよう支援していきます。また、保護者・地域・学校・関係機関が連携し、子どもたちを見守れるよう児童クラブが橋渡しとなりながら関わりを持ってきました。今後も手を取り合い温かい学童を作っていきます。

伸栄たんぼ児童クラブ

2020年度は、1年生～3年生までの81名でのスタートになりました。登所自粛や特例保育、保護者の働き方の変更もあって、出席日数が少ない子や退所も多くありました。

コロナ禍での生活で、学童に帰ってきたらまずは体温・ハンカチの確認から始まります。日常的なマスクの着用や、冬でも冷たい水での手洗いも文句や不満を言うことなく定着しました。

遊びでは、一度始めるとひたすらその遊びを極めたい『職人』気質な子が多く、庭でやるどんがめ・一輪車、室内でやるけんぱは、一度始めたらおやつ時間になるか、お迎えが来るまでずっと続きます。みんな不思議と「飽きない！」ようです。

伸栄では、全学年がほぼ同じ時間に下校ということもあって、おやつは感染対策を行いながら全員で一緒に食べています。班という名前ではなくおやつグループ名で、その中で3年生は1年生の面倒を見てあげることをしてきました。支援員に「おやつ苦手なものがあるみたい…」と教えてくれたり、お茶のポットを取りに来てくれたり、グループ内で「おかわりどれほしい？」と声を掛け合ったり、学童内では最上級生として一生懸命頑張っていました。

若松わんぱく児童クラブ

2020年度は18人の新入児を迎えて、56人の児童で学童の生活をスタートしました。子どもたちが自分らしくいられて、自分のことも相手のことも大切にできる、子ども集団を目指してきました。

今年度は新型コロナウイルスに翻弄された一年となりました。子どもたちにとっては今の状況を理解しつつも窮屈な我慢の続く日々だったと思います。学童では何ができないではなく、何ならできるか、という視点を忘れずに保育を組み立ててきました。今まで同様の行事や班おやつなどはできませんでしたが、自由おやつを導入したり、子どもたちが楽しめるようにと、お楽しみ会などを企画したりしました。自由おやつは自分たちの食べたい時間に食べられるので子どもたちには好評でした。密を回避するために小学校の教室や体育館をお借りしてあそぶこともできました。普段とは違う空間は子どもたちにとっては特別感があり、使用できることを楽しみにしていました。毎日子どもたちが笑顔で元気に学童に帰ってきてくれる当たり前の日をとても嬉しく感じる一年となりました。

並木みつばち児童クラブ

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学童の生活が大きく変わった一年で

した。感染症対策はしっかり行いつつ、学童としてできることは何かを常に考え、子どもたちとも何ができるか、どんなことに気をつけたらいいかを考えながら、いっしょに生活をつくってきました。

自粛明け「待ってました」とばかりに子どもたちは、ドッジボールやドロケイなど外での集団遊びと外でのおしゃべりに夢中になっていました。みんなに会いたかったんだなあというのが伝わってきました。いつもの行事ができない中、みんな楽しんでることを外でどうできるかを高学年が中心になって考え企画してくれて、「夏休みどまんなかパーティー」「ハロウィンおやつ」「2020年さよならパーティー」「ベーゴマ大会」「節分おやつ」を楽しむことができました。年度の後半には、外のベンチの設置やコマ台づくり、“マイやっこ”づくりからの木工が流行り、工具を使ったものづくりにも挑戦しました。

また、一年間保護者会ができなかったため、保育報告の代わりに写真入りのカラー冊子を作り、全世帯に配布したり、おたよりを多く発行したりして、子どもたちの様子を伝えてきました。

中央とんぼ児童クラブ

新型コロナウイルス感染拡大により、登所自粛の中始まった今年度。4月途中からは保護者の皆様にご協力いただき、臨時休所をさせていただきました。全員が学童に戻ってきたのが6月。「久しぶり！」「学童、懐かしいなあ」等、久しぶりの学童の登所に色々な反応を見せてくれました。

一年間のあそびは、ボール遊びや鬼ごっこ等、体を思い切り動かす遊びや、県営グラウンドの季節ごとの自然を生かした秘密基地や遊び場づくり。室内では、様々なボードゲームを楽しんだり、お絵かきや読書、工作など一人の時間に没頭することも。様々なあそびを楽しんだ1年でした。

キャンプ等の行事が中止になったこともあり、新しい生活にも慣れてきた頃、「みんなで楽しい

ことをしたいね」と5,6年生リーダーに投げかけると、お楽しみ会を企画してくれました。スタンプリヤーや缶蹴り、駄菓子屋さんなど楽しい1日をつくってくれました。

これまでとは何もかもが大きく変わった一年でしたが、大人も子どもも、今の環境の中で最大限に楽しむことを考えてきました。来年度も今できることを考え、子どもたちと一緒に楽しい学童をつくっていきたいと思います。

椿峰たいよう児童クラブ

2019年度末、長きにわたり過ごしてきた建物を離れ、椿峰小学校内へ移転をしました。学校内という事で、下校の安全は確保されましたが、今までの様には過ごすことができず、ボランティア室という地域のサークル活動で使用する1教室の中で、子どもたちとどうやって生活をつくっていくかを考えました。8ヵ月後の2020年12月に同じフロアに占有スペースがつけられ、引っ越しをしてみて、改めて専用の生活場所がある事の大切さを感じました。新しい学童に引っ越した初日、下校してきた子どもたちが気持ちよさそうにゴロゴロと寝転がっていた光景が今でも忘れられません。

新しい学童は1教室なので、決して広くはありませんが、この中でどうやって気持ちよく過ごせるか、子どもたちと1から考えました。班長達と相談をして行う事になった週1回の掃除では、子どもたち全員がとても熱心に取り組んでいました。自分の掃除場所が終わると「手伝おうか?」と声を掛けて協力している姿も目にしました。コロナ禍も含め、今の限られた状況で、どうやって過ごすか、何ができるかを子どもたちと共に考え続けた一年だったと思います。

山口おおぞら児童クラブ

例年、山口児童クラブではバザーや親子遠足な

ど様々なイベントを保護者の皆様と協力して行ってきましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染予防のため全て中止となりました。

コロナ禍の中でもクラブ内で子ども達が楽しめるイベントを行おうとアイデアを出し合い、夏休みには駄菓子屋さんやゲームイベント、ペットボトル風鈴やうちわ作りなどの季節の製作、秋冬にはベーゴマ缶ゴマ長回しチャレンジ、ベーゴマ大会、けん玉検定などの伝承あそびに取り組みました。年度途中に子ども達からやりたい遊びや大会、読みたい本などを募るアイデア箱を設置し、その中から実現したマンカラ大会はクラブのほとんどの子ども達が参加し、連日白熱した対戦が繰り広げられました。年間を通じて人気の一輪車や大縄、ホールでのボールあそび。狭い敷地内でも元気いっぱい体を動かして遊ぶ姿に「あそびは子どもの栄養」を実感する毎日でした。

限られたスペースの中で感染対策に配慮しながらも、充実した時間を過ごせるようにと試行錯誤の日々でしたが、みんなが安心して通えるように、お互いを思いやり合い協力することを大切にしてきた一年でした。

上新井すぎのご児童クラブ

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、子ども達の学童での過ごし方が大きく変わった一年でした。今まで行っていた班活動、取組み、行事の殆どが取り止めとなり、ホール遊びが一番人気だった大根抜きや室内ドッチボールも、室内で過ごす空間確保のために取り止めました。それでも、普段の遊びを通して少しずつ関係を築いていく姿がありました。

校庭では、第二児童クラブの友達も交えて大人数で増え鬼を行っていました。学童前での大縄や、だるまさんが転んだ、砂場遊びでは、「入れて」と声をかけて仲間に加わったり、「やりたい?」と声をかけて誘う姿もありました。集団で遊ぶ楽しさを体験し、「(仲間に)入れて!」「いいよ!」

と気軽に言い合える関係性が出来ていました。

6年生を送る「巣立ち式」では、1、2、3年生はクラブの飾りつけを行い、4、5年生が会の準備を行いました。相談・企画・進行をする中で“相手を喜ばせたい”“楽しい”という思いで、皆で一つの行事をつくり上げることができました。

第二上新井ひよっこ児童クラブ

2020年度は、第二上新井学童がNPOに仲間入りをした3年目の年でした。年々、子どもたちとの生活や関係が濃密になってきた中で、年度初めから休校が続き、学童も閉所となったことや職員体制が変わったことは子どもや保護者に沢山の不安や戸惑いがあったと思います。その中でも子どもたちが安心して過ごせるように、一人一人の思いを大切に生活をつくってきました。

手作りで増築したテラスは天気の良い日は過ごしやすい、宿題や日向ぼっこ、お家ごっこで子どもたちに人気の場所となっています。施設内ではベーゴマ、缶ゴマ、けん玉検定に取り組み日々腕を磨き、校庭では高学年中心に集団遊びで盛り上がる姿がありました。ひよっこ縁日や、上新井学童との合同行事(ハロウィン、お正月縁日)は高学年が自らお店のお手伝いをやってくれ、皆で楽しむことができました。次年度は1~3年生の低学年保育となりますが、子どもたちとこの学童で一緒に積み上げてきた3年間の経験が、今後の子どもたちの成長に繋がっていく事を望みます。

緑町三丁目学童保育所 (よつばクラブ)

コロナ禍の中、感染拡大防止策をとりながら、出来る事を子ども達と一緒に実現してきました。遊びも行事も子ども達の発想と子ども達の自主的な関りを大切にしてきました。三密を避ける意味で、大人の意見も伝え考えてもらいながら、生活の基本は子ども達であることはブラさずに一年間送ってきました。

具体的にはかくれんぼ、色々な鬼ごっこ、ドッジボール、卓球、カードゲーム類、レゴ、お化け屋敷等、各部屋ごとの特徴を生かして自由に遊びを展開する子ども達。行事は子ども達発想で、「ハロウィンパーティー(仮装中心)」「クリスマスパーティー(プレゼント交換)」「サプライズパーティー」等々、準備も内容もすべて子ども達自ら計画し実行してきました。

保護者の皆さんには、お便りや日々のお迎えの際に、子ども達の遊びの様子を動画映像に残し、見ていただく等の工夫をしてきました。保護者の皆さんから、各家庭での子ども達の様子をさりげなくお知らせいただいたりすることで、子ども達の育ちに共に関与させていただいている事を実感してきました。

2021年度も「子ども達が主体的につくるよつばクラブの生活」を合言葉に、保護者の皆さんと共に子ども達の良き伴走者となるべく頑張ります。

宮前かめのご児童クラブ

70名の在籍でスタートしましたが新型コロナウイルス感染拡大防止の為に始まった臨時休校により、出席は少ない日々でした。感染予防のための消毒など、どうすれば子ども達の安全につながるのかを模索しながら保育を行いました。

夏には学校プールが借用できず、水鉄砲やスプレーを使い水遊びを行いました。庭では泥団子や水で川や山をつくり、全身泥だらけになって遊ぶため、着替えをする子は毎日のようにいました。鬼ごっこ系の遊びが大好きな子が多く男女学年問わず遊んでいました。室内では積み木をつかって、ピタゴラスイッチのようにビー玉を転がすコースをつくったり、カプラを天井に届くほど積み上げ高さを楽しんだり、道路に見立てミニカーを走らせたりなど工夫をしながら遊んでいました。シルバニア、人生ゲーム、レゴなども人気です。割れないシャボン玉、サソリの標本などの工作を

行う工作週間以外にも、自分達で人形の家や剣・盾を作るなど、発想の豊かさを感じます。校庭ではジャングルジム鬼やサッカーや野球、虫、トカゲ捕りなどを楽しみ地域の子と遊ぶ姿も見られました。

コロナ渦でいろいろな事が制限される中、子ども達は楽しいことを見つけて毎日思いきり遊んでいました。

三ヶ島つくし児童クラブ

2020年度は67名の在籍でスタートしました。新型コロナウイルスにより緊急事態宣言の時など保護者の皆様へは、ご理解ご協力を頂き、一年間クラブ内で感染することなく、無事に過ごす事ができました。子どもの安全をどのようにしたら守れるか何度も打ち合わせを行い話し合ってきました。アルコール消毒の徹底、テーブルにアクリル板の設置、室内が密にならないよう外にもテーブルの設置と雨よけのテントを設置しました。

子どもたちは、今までと環境が変わり、決まり事も増えてしまいましたが、新しい生活のルールを受け止めてくれました。密にならないよう距離をとったり、遊ぶ位置を変えたりと工夫しながら遊んでいました。秋ごろから集団で遊ぶ機会が増えていき、三ヶ島自慢の広い原っぱで、鬼ごっこやサッカーなど全身を使って遊んでいました。学童前では、手作りの「やっところ」が流行り、5本のやっところを順番で遊んでいました。このような状況でしたが「何か楽しい事がやりたい」と子どもたちから話があり、秋と冬にビンゴ大会を行い、子どもたち全員で楽しいイベントを開催する事ができました。

林くわのこ児童クラブ

今年度は55人でスタートとなりました。昨年3月から続く新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言の下、登所自粛や臨時休所と

なり、見通しがもてないままスタートした一年でした。そんな状況だからこそ、できる限り、子どもたち一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、安心して過ごせるような学童を目指してきました。

専用の施設、専用の庭があって、目の前の校庭も使用できるという恵まれた環境を活かしながら、子どもたちとともに生活をつくっていくということを大切にしてきました。いろいろなことが制限された一年ではありましたが、子どもたちの成長を実感することができました。

春：卓球や一輪車など、

それぞれがやりたいことを極めていました。

梅雨：体育館を利用させてもらいました。

高学年が中心になって全体でリレーや

鬼ごっこをして楽しみました。

秋：『ゾンビ』が流行りました。

男女学年問わず、声を掛け合い仲間に入っていました。『鬼滅の刃』のぬりえを導入したことで、ぬりえをやる子も増えました。校庭では中学年が中心になったふえ鬼が行われました。

冬：毛糸をたくさん準備し、指あみのマフラーを作る子が多く見られました。保護者会からいただいたすごろくやルービックキューブ等、室内のおもちゃが充実しました。普段はみられない関わりや姿をみる事ができました。

若狭たけのこ児童クラブ

77名の子どもたち。年度初めから思い切り体を動かして遊ぶこともできず、今まで経験したことのない日々を過ごしました。行事の中止も余儀なくされ寂しくもあった年でした。放課後の生活や取り組みもできる範囲で考え工夫しながら乗り切った一年となりました。

保護者の協力を得ながら新しい生活様式への切り替えを行っています。施設内は子どもたちが安全に過ごせるよう職員一丸となって感染予防を強化し日々時間ごとの清掃・消毒と取り組みま

した。今でも続くマスクのわずらわしさはありますが、今は公園や林を自由に駆け回ることができています。隣接した公園では山桜やカナヘビ、かまきり、どんぐりや落ち葉遊びと四季折々の自然と触れ合える恵まれた環境です。外遊びでは大縄跳びや、一輪車。ドッチビーの集団遊びも定番となり、みんなと遊べることを楽しみにして学校から帰ってくる姿がありました。下校して宿題を終えると「〇〇やるひとー！！いくぞおーっ！」一目散に若狭いこいの森公園へ飛び出し連日大集団で遊びました。室内では、ベーごま、こま、けん玉、工作、手芸などなど。コロナ過の中で、ドミノ遊びも新たに加わり「今日は、何をしようかな～?」「昨日の続きをするぞ!」ワクワクした思いが溢れている若狭の子どもたちは、今日も元気に過ごしています。

2020年度 職員部会のまとめ

私たち、放課後児童支援員は、保育者としてのまなざしを磨き、子どもとともに生活をつくり、その生活を通して子どもたちが健やかに成長・発達していけるように支援します。

はじめに

新型コロナウイルス感染拡大防止のために緊急事態宣言が出され、年度末から年度始めにかけての休校がつづき、今年度は異例のスタートとなりました。

感染症対策の徹底と、子どもたちの安心・安全は、時に両立が難しく矛盾を抱えることもありましたが、各クラブで工夫し、また、地区等で情報を共有しながら、なんとか乗り切ってきたというのがこの一年間でした。

今年度行われた次期指定管理者の選定では、長年の実績に加え、各クラブにおける安定して継続した保育を土台とし、資料作成では指定管理プロジェクト中心に知恵を出し合いました。結果として次年度から5年の間、継続して保育ができることが決まりました。

私たちはこれまで、定例職員会議や地区支援員会等、定期的な会議を通して情報の共有を図り、また、まなざしを磨き合い、育成支援の充実につなげていくということを大切にしてきました。今年度、会議の開催は最小限に留めたため、特に前半は各クラブや個人で悩むことも多くありました。後半には国のコロナ補助金も活用して iPad が配備され、オンラインでの会議や研修を行ってきました。慣れない中でしたが、オンラインだからこそできること等も発見することができました。また、会議や移動時間が減ったことで、それぞれのクラブで保育準備の時間がたくさんとれて良かったという声も聞かれました。今後も、こ

れまで大切にしてきたものを残しつつ、新しい会議、組織づくりを進めていきたいと思いをします。

大規模・過密の問題は依然として深刻です。学童保育を必要としている子に豊かな保育を、という思いから、今年度4月に緑町三丁目学童保育所（よつばクラブ）を開設しました。コロナの影響はあるものの、独自運営だからこその保育をと、子どもたち一人ひとりの声を大切にした主体的な生活づくりが実践されています。更に次年度4月からは、南小校区に民設民営クラブ「ひだまりみなみ」を開設できることになりました。

非常に厳しい状況ではありますが、職員同士の支えあいを大切に、今後も一つひとつ課題を乗り越えていきたいです。

1、子どもたちが安心して過ごせ、主体的に関われる生活の場をつくり、集団の中での子ども同士の関わりを大切にした育成支援を行います。

- 各クラブで保育方針・保育計画を立て、実践を振り返りながら、子ども一人ひとりの人格を尊重して育成支援を行ってきました。
- 各地区支援員会議では、保育実践を交流し、保育者としてのまなざしを磨き、課題や成果を共有してきました。また、常に自己研鑽に励み、子どもの育成支援の充実を図ってきました。
- 学校との連携を積極的に図り、子どもの生活の連続性を保障し、育成支援の充実に努めてきました。また、子どもに関わる関係機関等との情報交換や情報共有、相互交流も大切にしてきました。特に今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、青少年課が間に入ってくれる形で学校施設の活用を進めることができました。

•障がいをもつ子、特別な配慮を必要とする子が、安心して生活でき、子ども同士が生活を通して共に成長できるよう、専門機関等との連携を大切にし、必要な環境整備を行えるよう努めてきました。

•子どもが安全に安心して過ごすことができるように環境を整備するとともに、緊急時に適切な対応ができるよう、防災及び防犯対策に努めてきました。

•新型コロナウイルス感染拡大防止対策についても、各クラブ徹底して行うことができました。

•実施主体である所沢市との協力関係を基に、育成支援の充実を図ってきました。

2、支援員同士がお互いに支えあい、相互に協力して自己研鑽に励み、育成支援の充実を目指す職員集団をつくります。

- 地区支援員会では、会議の開催や記録の作成等を通じた情報交換や情報共有を図り、事例検討を行うなど相互に協力、切磋琢磨し育成支援の充実を目指してきました。年度途中からは、iPadを活用することができました。
- 支援員は、常に自己研鑽に励み、子どもの育成支援の充実を図るために、必要な知識及び技能の修得、維持及び向上に努めてきました。
- 育成支援の充実のため、全国学童保育連絡協議会及び埼玉県学童保育連絡協議会及び西武沿線ブロックに主体的に関わってきました。役員を担う職員や、研修会の司会や世話人を引き受ける職員もいました。また、オンライン研修が増えたことで、研修等に参加しやすくなったという声もありました。

3, 放課後児童クラブ運営指針を基に、保護者とともに、「学童保育」を守り、発展させていきます。

- 各クラブでは、日々子どもたちの姿を伝えることで保護者とともに子どもの育ちを共有し、子育て支援を行うことで保護者の就労を支えてきました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、保護者会等での保育報告はできませんでしたが、各クラブでおたよりのメール配信や電話連絡など、家庭への支援を続けてきました。また、地域との連携を深め、学童保育にさらなる理解を得られるように努めてきました。

【2020年度職員部会研修参加一覧】

日付	研修名	参加
9/16	実践記録学習会 (県指連協 主催)	8人
9/25	東上沿線基礎講座 (東武指連協 主催)	7人
11/26	西武沿線基礎講座 (西武指連協 主催)	32人
12/2	新人研修① (NPO)	5人
12/6	障害児集中講座① (県指連協 主催)	5人
12/13	放課後児童支援員研修会 (埼玉県 主催)	20人
2/4	新人研修② (NPO)	5人
2/11	障害児集中講座② (県指連協 主催)	2人
2/17	冬の基礎講座 (県指連協 主催)	8人
2/25	児童館児童クラブ合同研修 (所沢市 主催)	32人
2/26	飯能市学童クラブの会主催研修	3人
2/28	実践交流会 (県連協 主催)	16人
	放課後児童支援員認定資格研修 ※計4日間(埼玉県 主催)	8人
3/12	西武沿線学習会 (西武指連協 主催)	25人
毎月	クラブ内・地区内研修 (NPO)	42人
	その他オンライン研修 (民間等)	45人